

全員協議会 会議録（要点筆記）

令和 元年 9 月 20 日（金）

午後 1 時 30 分 開会

午後 1 時 45 分 閉会

場所 : 全員協議会室

〔報告案件〕

1 市役所庁舎設置の免震オイルダンパーについて（現状報告）

山本卓美総務部長：資料に基づき説明

加藤美幸議員：この会社のものを交換するという事例、他の市町での物件でうまくいったような事例はあったのでしょうか。

山本卓美総務部長：優先順位がありまして、現在建設途中のものを第一に交換をし、その次に病院、公共施設そういったものを順次交換をしておりますので、実績はかなり積み上がっています。この段になって不正ということはありませんので、信じるしかないのですが、検査結果は受け取った後に設置をしていただく予定をしています。

新美保博議員：確認をします。オイルダンパーは12本設置されているということで、12本の取り換えということでよかったのでしょうか。

山本卓美総務部長：12本すべて交換していただきます。

2 第2回半田市立半田病院・常滑市民病院統合会議について

竹内甲司病院事務局長：資料に基づき説明

中川健一議員：経営統合の時期についてお尋ねをしたいと思います。令和7年が適切とする意見と令和4年が適切とする意見が両方あるわけなのですけれども、単純に考えたらもっと早く経営統合した方がすべての面で合理的に経営できるのではないかと思いますので早くした方がいいと思うのです。その理由は、例えば、私たち半田市議会の総務委員会が昨年度の行政視察で関西の加古川中央市民病院に視察に行った際には、公営企業として経営統合して病院建設をするよりは、独立行政法人化して病院を建設等の方がかなりコストメリット、いろんな意味でモチベーションが働くので合理的に建物も造れたというお話も伺っているのです。そういうのも踏まえると令和4年度よりもっと早く経営統合して、経営統合した母体が病院の建設をするぐらいの勢いで本当はやった方がいいのではないかと思います。そのようなことはできないのですか。

竹内甲司病院事務局長：私どもの病院は統合した場合でも二つの病院が存在するという特殊なケースになります。視察してきたところは統合して一つの病院になるというケースでした。そうした場合、今回我々が主張した令和7年とした理由がありますけど、まだまだ統合するといっても二つの病院がまだ離れた時期に統合したとしても、統合するだけのメリットが見い出せないのではないかと、半田病院は新病院を造るために一生懸命お金を貯めるよう、黒字になるよう頑張って経営している、一方では、常滑市民病院は今、苦しい経営状況の中でそれなりには頑

張っているというところなのですけど、やはり半田は半田で新病院建設のために頑張って職員一同やってきましたので、そういった意味で職員の士気という意味から言ってもまずは半田病院として建てたうえで統合したいというのが我々の考えです。

中川健一議員：病院の経営統合というのは半田市だけの都合でやっているわけではないものですから、もちろん半田市の職員の皆さんのモチベーションとかはわからないわけではないのですが、当然、統合をしないつもりならばそれでも構わないのですが、統合することを考えているのであれば早いところ独立行政法人化して、イコール経営統合ということですよ、やる方が例えば、同じことをやるにしても行政としてやるのと独立行政法人として取り組むのでは、やはりスタンスとかやることが変わってくるので、そういう意味ではそちらの方面を、独法化して経営統合するつもりだったら、半田市の事情云々ではなくて全体の利益を考えて進むべきじゃないかと思うのですが、それよりも半田市の都合の方が優先されるというのはどういう利益が半田市民に生まれるのでしょうか。

竹内甲司病院事務局長：半田と常滑の経営の状況の違いというのもあると思います。半田は今黒字、常滑は赤字という状況があるなかで、では一つの経営になると半田の黒字で常滑の赤字を埋めるということになります。それは今の状況、半田病院がここにあって、常滑市民病院があそこにあるという状況のなかで、半田の黒字を常滑の赤字を埋めるために、資金を投入するというのが市民の皆様に理解をいただけるかどうかというところが、一つ考えるとやはりそこは新病院ができてから統合した方がいいというのが私たち半田市の考え方です。

午後 1時45分 閉会